

成人式に思ったこと



大畑雅幸教育長

1月8日(日)、「成人式」を行いました。今年の成人は576名です。催しの企画、運営はすべて各中学校区代表の実行委員の皆さんが行い、立派な式典でした。実行委員長、副委員長の挨拶、代表の「二十歳のメッセージ」、司会進行ぶりを見て、率直に「しっかりしている、頼もしい」と嬉しく思いました。この若者達の多くが、恵那市に留まり、或いは戻って、将来を担ってほしいと思いました。同時に、急速に進む“少子化”のことが頭の中に浮かんできました。一世代前、私が教員になった頃の旧恵那市と旧恵南地区の人数を合わせると、1学年の平均が900人前後でした。あれから35年程経ち、今年成人の人数は3分の2になりました。随分減りましたが、満席の文化センター大ホールの客席を眺めると、まだ淋しさ、心細さは感じません。しかし、その後も徐々に減り続け、平成28年度の当市の出生数の見込みは、280名程度、今年成人数の半分になってしまうことが分かっています。その内、故郷にどれだけ暮らしているかも分かりません。

少子化は全国的な傾向、22世紀を迎える頃には日本の人口は推定6千万人、更に都市集中になると言われています。また、平均寿命も更に伸び、現在10歳の子どもの41%が22世紀を迎えると言われています。超少子高齢化ということです。その頃になって、たとえ仲間が少なくなっても、恵那市のそれぞれの地域を担う人達が連携し合ってコミュニティが成り立っていくような準備をしておかなければなりません。高度経済成長期、周りには同級生や仲間が大勢いた時代に育ち、都会へ出て行った仲間も大勢いるけれど、まだ地元にも仲間がいるという昭和生まれの私達とは違う環境、境遇の中であっても、たくましく自己実現を図っていける人を育てるために、恵那市学校教育の重点『主体性と社会性、郷土愛の育成』を更に推進していきたいと思えます。

重点目標にかかわって「小さな学校の大きな教育」



井口道雄教育委員

新しい年、平成29年を迎えました。本年もよろしく願いいたします。

私事で恐縮ですが、数年振りに家内を誘い元旦零時を合図に地元の氏神様へ初詣に出かけました。混んでいるだろうの思いとは違い比較的空いていてびっくりしました。無心で手を合わせ日頃の無事を感謝して帰りました。

さて、平成28年度も「重点目標にかかわってまとめと総括」の時期を迎えております。目標の中では単年度で達成するものは少なく、複数年度の見直しの上で達成するものが殆どです。それだけに達成へ向けての単年度毎の積み上げは一層重要であり、その総括は厳しさが要求されます。特に、将来の恵那市を担う子供たちの育成の場である「こども園」「小中学校」の教育環境の充実整備はその中心として進めていかなければなりません。行政委員の一員として職責の重大さを噛み締めて今後も務めていきたいと思えます。

昨年の教育委員会学校訪問や南地区中学校合唱交流会における串原小中学校の取り組みとその充実ぶりには目を見張りました。少人数にもかかわらず小学校の国語算数授業では、ひとり一人が学習課題に楽しく立ち向かい自分の考えを先生だけでなく仲間に対して発表し、その声は実に力強いのです。正にひとり一人が育てている印象を受けました。また、中学校の合唱交流会では全校生徒11名が、他校を圧倒するような感動的で心に響く合唱を披露してくれました。困難な状況の中で、素晴らしい教育活動を展開する児童生徒の皆さん、それを支える関係者の皆様に敬意を表したいと思えます。

最後に、恵まれた環境が人を育てるとは限りませんが、より豊かな環境を与え続けていくのが私達大人の責務だと考えています。

「三学」とは～恵那市の生涯学習の基本精神…

*** 生涯学習まちづくりセンター ***

恵那市では、郷土の先人佐藤一斎先生の「三学戒」の精神を理念として、平成22年に三学のまち推進計画を策定し、平成23年には生涯学習都市宣言を行いました。

「三学戒」とは一斎先生の語録「言志四録」のなかの「言志晩録」60条「少にして学べば 則ち壮にして為す有り 壮にして学べば 則ち老いて衰えず 老いて学べば 則ち死して朽ちず」の教えのことです。社会に役立つ有為なひとになろうと生涯学び続ければ、その精神は朽ちることなく、いつまでも人の心に残るという生涯学習の大切さを説いたものです。

この教えを「三学の精神」として生涯学習の基本におき、市民三学運動を展開しています。これが恵那市のすすめる生涯学習です。そして、この運動では、「書に学ぶ」、「求めて学ぶ」、「学んで生かす」を3本の大きな柱としています。

具体的な施策の一つとして、「恵那三学塾」があります。市民講座をはじめ、大学連携講座、出前講座など、各



の学習機会を一元化し、学ぶ機会を提供するとともに、学びを地域社会に生かしてもらえるような工夫に心がけています。特に、「三学のまち講座」や「先人学習講座」などは、地域を学び、その学びを地域づくりや地域の課題解決に役立ててもらうことを目的にしています。

地域づくりと生涯学習を一体的に推進する。これは恵那市の生涯学習の大きな特色でもあります。現在、来年度の計画づくりを行っております。皆様のご意見ご提案、またご参加をお待ちしています。

【生涯学習フォーラム2016～事例発表】

地産地消の学校給食

*** 恵那市学校給食センター ***

平成28年4月より、市内4カ所の学校給食センターにおいて、岐阜県産のお米を恵那市産のお米に替えて使用しております。6月1日より、月2回、パン給食と麺給食を米飯給食に替え、週3.0食の米飯給食を3.5食に増やして、地元のおいしいコシヒカリの米飯給食を提供しております。

また、給食センターは地元産の野菜を多く使用し、地産地消を推進しております。今後も「安心・安全な給食」を児童・生徒等のみなさんに、食べていただけるよう職員一同がんばってまいりますので、よろしくお願いします。



【地産地消の食材で調理した給食】



【調理の様子】